

薬物動態試験、投与・採血用

手術基本情報

- **系統**：ラット Cri:CD(SD)、マウス Cri:CD1(ICR)、C57BL/6J、BALB/cAnNCriCrlj
- **性別**：雌雄
- **週齢**：ラット 4-9週齢、マウス 手術時体重20 g 以上
- **手術時間**：ラット 12-15分、マウス 20-25分
- **術後観察期間**：1日間
- **微生物グレード**：ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン SPF項目
- **麻酔薬**：ケタミン・キシラジン混合麻酔薬
- **鎮痛剤**：カルプロフェン 5mg/kg S.C. SID 手術当日のみ
- **抗生物質**：投与なし(必要に応じて投与)

カテーテル情報

- **素材**：ポリウレタンチューブ Access Technologies/Norfolk Medical Products , Inc
- **型番 サイズ**：ラット BC-3.5P ID:0.6mm/OD:1.1mm、マウス BC-2P ID:0.3mm/OD:0.6mm
- **ゲージサイズ**：ラット 22G、マウス 30G
- **カテーテル先端形状**：スクエア、ラウンド(ラットのみ)
- **デッドボリューム**：約50 μ l (手術動物証明書に記載)
- **充填剤**：グリセリン・ヘパリンNa混合液

処置概要

1. 体重測定及び一般症状観察を実施後、ケタミン・キシラジン混合麻酔薬を腹腔内に投与する。
2. 頸部腹側及び背側を除毛し、イソジン液及び70%エタノール液を用いて術野を消毒する。
3. 頸部背側及び腹側皮膚を切開後、腹位に動物を固定し、鑷子を用いて鈍性に切開し、頸静脈を剥離露出する。
4. 頸静脈遠位側を結紮し、頸静脈を切開し、カテーテルを挿入、結紮固定する。
5. カテーテル誘導管にてカテーテルを頸背部まで導き、背部筋層とカテーテルを縫合糸にて結紮固定し、クリップを用いて頸部腹側及び頸部背側術創を縫合する。

※本書式に記載された術式は、ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社手術グループ 手順書「ラット頸静脈カニューレション術」(承認No.966)、「マウス頸静脈カニューレション術」(承認No.1271)の内容に準ずる。

飼育、取扱いについて

頸背部よりカテーテルが出ているため個別飼育をお願いします。カテーテルがケージトップに挟まる可能性がございますので、ケージトップが低いタイプは避けて飼育してください。

カテーテルの開通性維持のため、最低3-5日に1回はメンテナンスを実施してください。この期間以内でも血液の逆流が見られた場合はカテーテルの破損がないかを確認し、メンテナンスを実施してください。

カテーテルのメンテナンス、採血、投与方法については別紙「カニューレション動物の取扱い」をご参照ください。

配送情報

- 輸送箱：プラスチッククレート
- 梱包形態：仕切り板による個別梱包
ラット：1-3匹/クレート
マウス：1-4匹/クレート



お問い合わせ

ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-17-6 イノテックビル11F
TEL: 045(474)9350 Email: ask@jax.or.jp